

## インターバンクの声（2017年4月12日）

東京市場の午後からロンドン市場序盤にかけて緩やかに円買いが進んでいたドル円だったが、ニューヨーク市場が始まる頃から円買いのペースが速まり、東京の午前零時前には5ヵ月ぶりに109円台に突入した。

シリアや北朝鮮を巡る地政学的リスクの高まりから「安全資産」としての円買いが加速したためだが、米長期金利の低下や米国株の下落も円買い・ドル売りを強めた。

110円を割りそうになった時間が、ロンドン夕方4時のフィクシング(値決め)前だったことに加え、損失を限定させるストップ売りのオーダーが並んでいたこともあって一気に109円60銭台まで円高が進んだ。

トランプ大統領得意のツイッターで「北朝鮮問題の解決に中国が協力を決断しなければ、われわれは中国抜きで問題を解決する」と表明したことが、円買いの直接の引き金だったらしいが、米国の攻撃に北朝鮮が反撃して日本に核ミサイルが飛んでくる想定でも本当に「安全資産」の円買いなのか。

まさかの事態は想定したくもないが、円買い・円売りどちらの反応が正しいかは個人の判断で決めておいたほうが良いだろう。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。